

子供のためのミュージアム

宮 本 知

はじめに

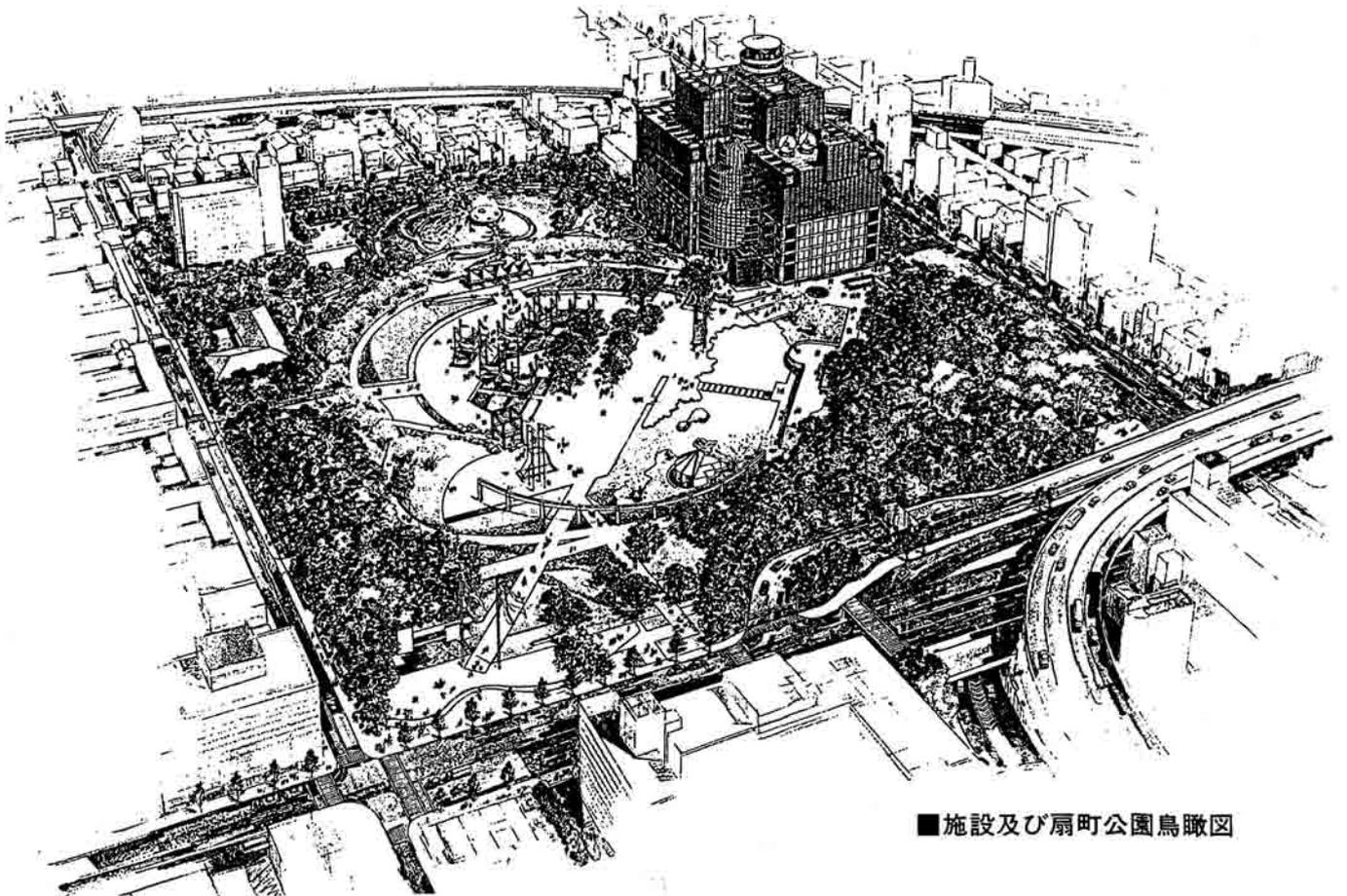
次代を担う子ども達が、どのように生き、どのような人間となり、どのような社会をつかってほしいか、それは、いつの時代の大人にとっても大きな関心事であり、そのことに際しては、何らかの希望を表明してきたにちがいない。

今、子どものための文化施設「キッズプラザ」（仮称）

を構想する機会を得、子ども達に対する希望を表明しようとするものである。

その際、現在の歴史的、社会的、文化的条件の中で、子ども達の中に生じてきている問題性をふまえ、それを未来からの光に照射してみるという検討作業が必要となる。

本稿は、キッズプラザ基本計画検討委員会*¹による検討作業の結果を踏まえ、子ども達への希望を具現化する施設のあり方を提案するものである。



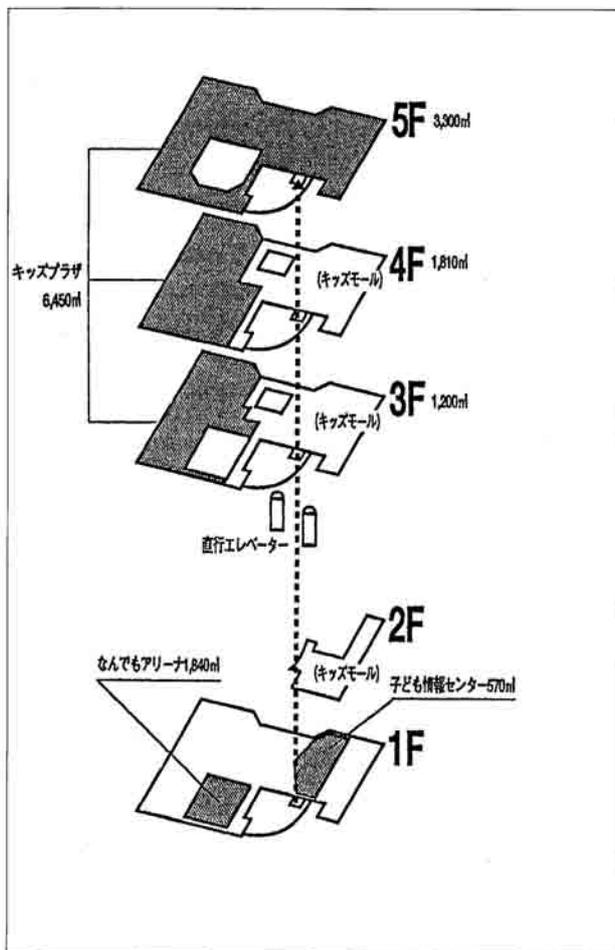
■施設及び扇町公園鳥瞰図

子どものための文化施設 「キッズプラザ」（仮称）とは：

キッズプラザは、新総合計画21にうたわれている子ども文化の情報発信交流拠点となることをめざし、土地信託事業により、放送メディア施設、サービス施設を含めた複合体施設である扇町キッズパークの中核施設として計画され、施設建物全体（扇町キッズパーク）^{※2}と一体的に整備される特徴を持つ。

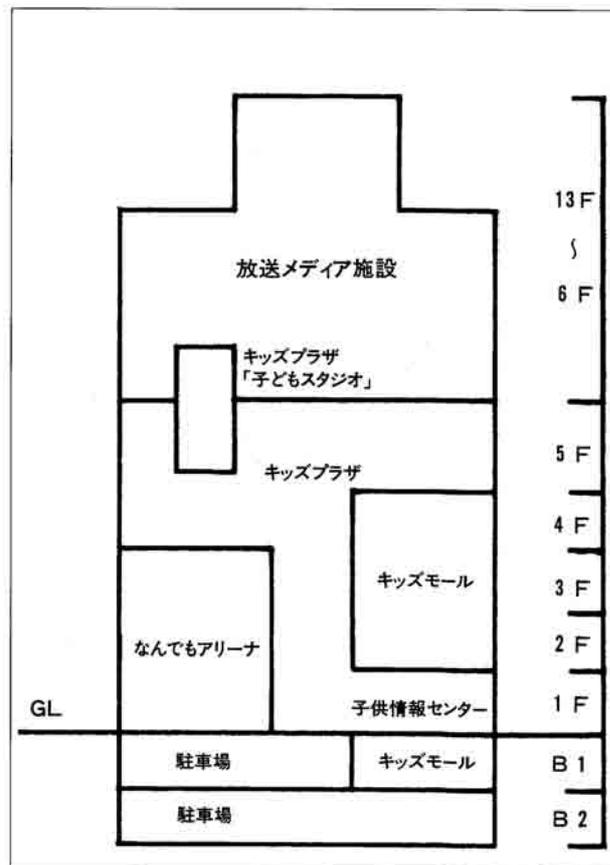
■施設空間概念図

- キッズプラザ (6,450㎡)
- ……子ども施設の中核施設
- なんでもアリーナ (1,840㎡)
- ……ホール兼スタジオ (放送メディア施設との共用)
- 子ども情報センター (570㎡)
- ……総合案内ロビー、情報ライブラリー、展示スペース



■施設構成概念図

- ・キッズプラザ（遊体験的学習施設）……………8,860㎡
 - ・キッズモール（物販・飲食・サービスの店舗ゾーン）……………2,850㎡
 - ・業 務 施 設（放送メディア施設）……………23,150㎡
- 建築面積：5,569㎡ ●延べ面積：51,798㎡
- 構造階数：鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造、地下2階、地上13階、塔屋1階



子どもをとりまく環境変化 と施設の必要性

子どもは本来、社会の不可欠な構成員の一員であり、地域社会の担い手である。また同時に国の将来を担う可能性と個性に満ちた存在である。しかしながら日本の経済的な豊かさや情報の豊富さに反して、子ども独自の遊び環境はむしろ憂慮される点も少なくない。子ども文化を守り育てながら、同時に新しい環境変化にも適応できる、創造性を伸ばす活動の場を用意することが望まれる。これは、同時に大阪市にとって子ども教育に対する見識の表明であり、世界への情報発信でもある。

知的好奇心と創造性の育成

あふれる情報の中で子どもたちの遊び方や学び方は受身的になり、物に対して具体的に働きかけたり、共同して行動することが減っている。また本来子どもが持つ多様な個性が画一化にむかう危惧がある。子どもの豊かな感受性、好奇心を喚起し、自らの発見や驚きを通じて創造性を養う、先駆的な施設が必要である。

国際交流と相互理解

関西国際空港の誕生は、大阪を世界と直結し、都市間交流を今後さらに進展させ、国際都市＝大阪を形成していくと考えられる。国際化に伴う文化、言語、風俗など世界の多様性に対する感受性や理解、寛容性の養育などは、より広い舞台で子どもひとりひとりの能力や個性を開花させるとともに、今後60億の人々と共生してゆく文化財産となる。

環境問題への理解と関心

温暖化、オゾン層破壊、酸性雨などに代表される地球環境問題は、世界各国が直面する人类的課題として、特に次世代にとって重要かつ深刻である。また都市化、文明化が引き起こす自然環境の破壊は、生物の豊かな多様性を損ない、人類の存立も危うくする。Think Globally. Act Locally. といわれるように、子どもたちにとっても、ひとりひとりが問題を感じ、考え、行動を起こすことで、

未来を積極的に切り開く、そうしたマインドと意志を社会教育の中でも育てることが緊急に望まれる。

遊びの変質と子ども文化の伝承

少子化、核家族化、住宅問題や塾などの諸要因で、子どもをとりまく遊び環境がこれまでの世代と大きく変わってきている。なかでも子どもが集団の中で遊びながら社会性を身につけたり、他世代と交流することが減少したといわれている。また身体性を伴う遊びが乏しくなったことは、子ども文化の衰退でもある。身体性を復活させ、仲間や他世代とふれあい、それぞれの個性や多様性を認めながら共生することを体験できる、子ども文化を守り育てる施設が望まれている。

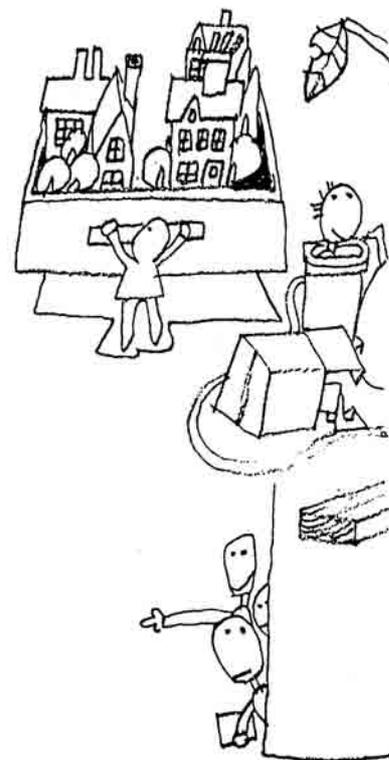
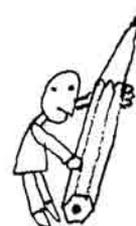


イラスト 毛利泰房

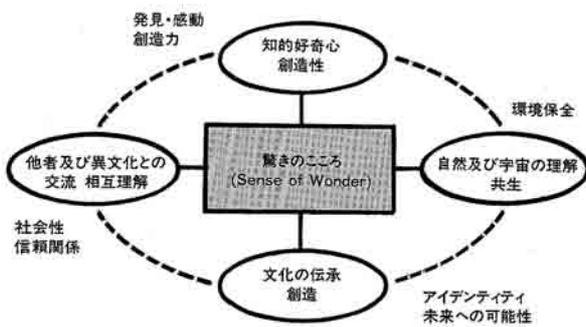
キッズプラザの目的と理念

キッズプラザは、子ども達の発見、創作、表現、交流など多様な体験活動を活性化し、他の人々や物や情報との親密なかかわりをうながし、楽しい遊びを通じて学び、創造性を培い、可能性や個性を伸張していくことをめざすものである。

すべての創造的活動の端緒は、身のまわりのさまざまな事象に対して驚き、感動し、不思議に思う心であり、この心こそが、子ども達の考える力や科学する心を育み、知性と人間性を培う鍵なのである。

キッズプラザはこの『驚きのところ“Sense of Wonder”』をバックボーンとして、子ども達が、自己や自己をとりまく世界を新鮮な感覚で発見し、感動する場を提供する。そのために、キッズプラザでは、次の4つの理念にポイントをおいて施設づくりをし、企画を展開する。

1. 知的的好奇心及び創造性の刺激
2. 他者及び異文化との交流と相互理解
3. 自然及び宇宙の理解と共生
4. 日本文化及び子ども自身の文化の伝承と創造



施設構想

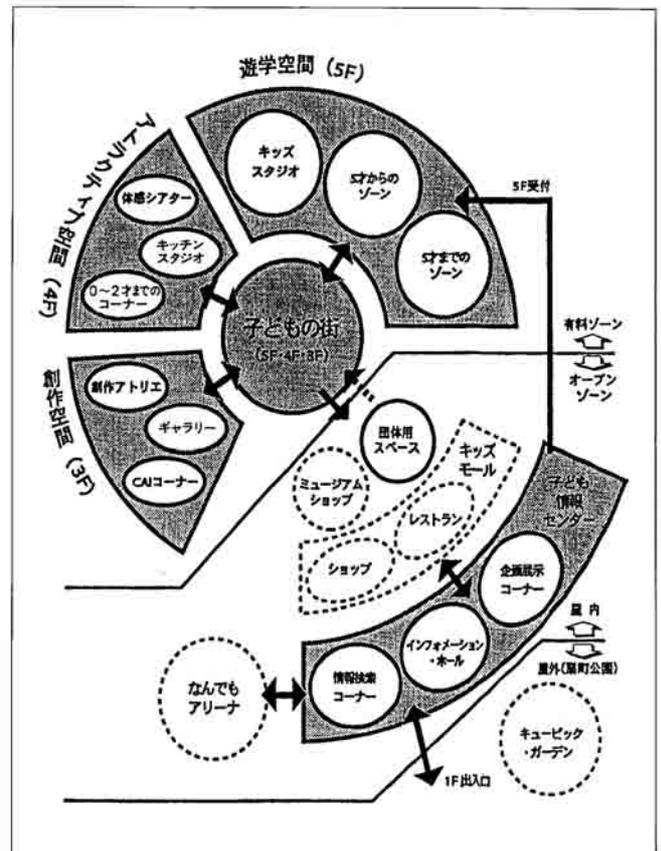
キッズプラザは、「遊び」の要素を随所に盛り込み、展示とワークショップを結合させた遊体験学習を中心に構成し、子ども達が主体的・能動的に関わっていける施設としたい。

キッズプラザは、子ども達の発見や交流、創作、表現など多様な体験に応える施設機能を持つ。また、小学生を中心に幅広い年齢の人々が楽しめ、同世代・異世代・家族・ボランティア・施設職員などとの協調による活動を展開したい。

キッズプラザが複合一体施設である扇町キッズパークの中核施設としての特長をいかし、隣接する放送メディアや扇町公園等と有機的に連携し、世界に情報発信する他に例のないグレードの高い施設を創出したい。

施設構成

キッズプラザは子ども達に楽しい夢を与え、それぞれの日常生活で埋没しそうになる人間本来の能力を発見し、活力を生み出し、またヤング層を中心とする大人にも魅力を持った施設であろうとするものである。空間環境においても、そうした楽しさをどこまで演出できるかが重要なファクターである。



キッズプラザの運営

- 子どもの視点にたち、子ども達の発見や交流、創作、表現など多様な体験を促し、幅広い人々とのふれあいの中で、子どもの個性や可能性をのばす運営を旨とする。
- キッズプラザが先進的な子ども施設となるための「研究・開発」(企画集団の構成・活用)を推し進めていくと共に、国内外の子ども関連施設との連携を強める。
- 隣接する放送メディア・キッズモール・扇町公園と相乗効果を発揮する運営をおこなうと共に、学校教育との連携、ボランティアの参加などを推進し、民間活力の導入を図り、施設のグレードや情報発信性を高め、活性化を図っていく。
- キッズプラザは常に新鮮な魅力を持ち続けるために、施設内容等が継続的に変化し発展しながら、子ども達の幅広い好奇心に応え、時代の流れに即応できる柔軟で機動的な運営対応を行っていく。

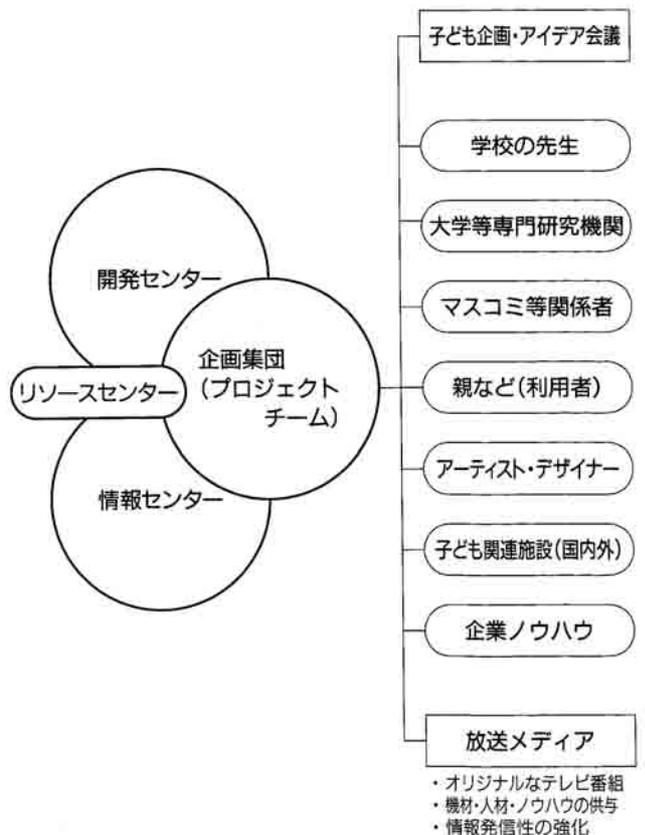


開発組織が運営のカギ

キッズプラザの活動を統括し、好循環させるカギは、不断に展示物やその他の教育ツールを開発し、次の局面を開いていくシステムを持つことと、その仕組みのあり方である。

この意味から、キッズプラザの活動の全体を通じて培われる Know How の蓄積をし、専門研究者・教師・親・そして子ども達を結びつける役割を担い、他のミュージアムや関連施設との情報交換をするための核となる組織が不可欠である。

開発組織概念図



展示について

子ども達が実際に触れ、体験することを重要とする。キッズプラザの理念を展示に生かすには、子どもが主体的に参加することができる体験学習型の展示を開発し、展開することが重要なポイントとなる。

この体験型の展示システムとは、触れたり、匂いを嗅いだり、動かしたり、試したり、何より遊んでみる、やってみることで発見していくという手法。つまり身体全体で感じ考えるということである。これは **In learning by doing!** と表現され “自分でやってみることこそほんとうに学べるのだ” *3 という考えに基づく手法である。

さらに、この体験型のミュージアムにおける展示のうちひとつ重要なポイントに、エキジビットインタープリターと呼ばれる展示と相互して重要な役割を担うスタッフが居ることである。このエキジビットインタープリター（訳せば展示説明者ということになるが、もう少し広い意味を持っている。）は、子ども達が興味をそそる状況を演出したり、展示に関連したゲームや工作などのアクティビティーを行う。また来館者が展示に触れたり、遊んだり、何かに興味をもち始める時、学ぼうとするきっかけを作ることを仕事とするスタッフである。

このインタープリターがなにげなく展示空間に居て、子ども達は自由に、自然に、学びの世界へ旅をする、そういう施設スタイルをキッズプラザで確立したいと考えている。

附記

現在、筆者は(財)大阪市教育振興公社からの委嘱プランニングディレクター。

本稿は、キッズプラザ基本計画検討委員会が策定したキッズプラザ「基本計画」に加筆し、まとめたものである。

註

※1 キッズプラザ基本計画検討委員会 委員メンバー：

・委員長	藤本 浩之輔	京都大学教授
・委員	石浜 紅子	エッセイスト
	辻井 正	おもちゃライブラリー主

宰

林 信夫	21世紀ディレクターズユニオン代表
眉村 卓	SF 作家
丸野 豊子	生活評論家
宮本 知	大阪芸術大学講師
米田 和正	「みんなげんきジム」

※学校教育関係者及び行政関係者を省略しました。

※2 扇町キッズパーク（北区扇町開発土地信託事業）の概要：扇町公園に隣接した工業研究所跡地の開発については、扇町地区の特性や公園との相乗効果などの観点から、「新総合計画21」にうたわれている子ども文化情報発信交流拠点を核として、この子ども施設「キッズプラザ」と相乗効果が期待できる関連施設も併せて建設するとともに、地域周辺の振興発展に資する施設づくりを、土地信託制度により事業を進める。

※3 1962～1986の永き間、ボストンチルドレンズミュージアムの館長をしていたマイケル・スポック氏の言葉である。

ボストンチルドレンズミュージアムはこども達が主体的に参加体験する手法をとる全米200以上のミュージアムのリーダーであり、この手法は世界中に広がって来ている。

